

彙報

二〇二一年一月より
二〇二二年十二月まで

研究班

公募型研究班

グローバル化する思想・宗教の重層的接觸と人文
學の可能性 班長 奥山 直司

初年度は班員間で問題意識を共有することに努
め、同時に調査と関連文献の収集を行った。二年
目は共通テーマを巡る、各班員の関心に沿った研
究発表を進めると共に、その過程でテーマとして
浮かび上がったエンゲイジド・ブッディズム等の
佛教の新潮流に的を絞った公開講演會・發表會を、
この分野における内外の代表的な研究者を招聘し
て開催した。こうしたことを通じて、佛教を始め
とする諸宗教のグローバルな動きを複数文化の接
觸という観点からとらえ直すことに手應えを感じ
ている。

三月二十九日 第二回研究會

加瀬澤雅人「アーユルヴェエダ
のグローバルな廣がり…生命の
智から『傳統』醫療、そして『癒
し』へ」
奥山直司「明治セイロン留學
生」

五月二二日 第三回研究會

守屋友江「アメリカにおける日
系佛教再考」

辻村優英「グローバル化にとも
なう佛教概念の應用—ダライ
・ラマ—四世の思想を中心に—」

六月二五日 第四回研究會

二宮文子「南アジアイスラーム
研究におけるシンクレティズム
論超克の試み」

藤本龍兒「ネオリベリズムと
進化論・プロテスタントの世界
觀」

七月二三日 公開講演會

阿滿利磨「エンゲイジド・ブッ
ディズムの定義とその課題」

(コメンテーター…泉恵機氏シ
ルヴィオ・ヴィータ氏 川橋範
子氏)

七月二四日 第五回研究會

山下博司「グローバリゼーショ
ンと傳統宗教—シンガポール・
ヒンドゥー教の事例によせて—」

一〇月一五日 第六回研究會

佐藤道信「進化論と狩野芳崖筆
『悲母觀音圖』」
金泰勳「植民地朝鮮における宗
教政策の導入と宗教的領域の再
編成」
稲葉穰「ヒンドウークシユ南北
に於けるイスラームとインド宗
教の接觸」

一〇月一六日 「グローバル化の時代における
「社會參加佛教」
ランジャナ・ムコパディヤヤー

一二月一九日 第七回研究會

舟橋健太「インドの「エンゲイ
ジド・ブッディズム」—B.R.
アンベードカルの佛教改宗と現
代インドの佛教運動—」

四戸潤彌「イスラーム法事案
をめぐる信徒の世界と非信徒の
世界の位相」—ヒジャーブ論争
を通じてみた教義と對立の構圖
—」

情報處理技術は漢字文獻からどのような情報を抽
出できるか—人文情報學の基礎を築く

本研究課題は、さまざまな情報處理技術—マー
クアップ言語によって構造化されたテキストの處
理、日本語の解析で成果を擧げている形態素解
析・構文解析技術、n-gram モデルによるデータ

班長 山崎 直樹

マイニングの技術、テキスト間の近縁性を調べる系統的分類法、ネットワーク構造を抽出し、その構造を可視化する技術を用いて、あらゆる角度から漢字文献の解析を試みる予定である。

本年は二月四日に最初の研究会を開催し、二月一日日にシンポジウム『文字と非文字のアーカイブズ／モデルを使った文献研究』を人文研で開催した。発表タイトルおよび発表者は以下の通り。

・「文字アーカイブズの現在」

岡本 真 (ARCG)

・「動畫のテキスト処理」安岡孝一 (京都大学)

・「寫眞の檢索可能性について考える」

守岡知彦 (京都大学)

・「ネットワーク分析から見た共観福音書間の比較研究」

三宅真紀 (大阪大学)

・「異なる文献間の數理的な比較研究をふり返る」

師 茂樹 (花園大学)

さらに七月八日に研究会を開催し、ネットワーク分析を用いた文献解析の可能性を議論した。この議論を九月三〇日の研究会でさらに突き詰め、一月一九日に公開セミナー『ネットワーク科學は道具箱』を人文研で開催した。講師と発表テーマは以下の通り。

・「ネットワーク解析の道具を理解しよう」

藤原義久 (兵庫縣立大学)

・「大規模社會ネットワーク分析の事例と展望」

湯田聽夫 (CREV)

また、上記公開セミナーに先立つ一月四日の研究会では、メタデータとその處理に関する議論

をおこない、『情報の構造とメタデータ』と題するシンポジウムを二〇一二年二月二四日開催で決定した。

生命知創成に向けたプラットフォームの構築

班長 小林 傳司

生物學研究は、一九七〇年代を起點として、實驗室に閉じたかたちで營まれていた自然哲學的色彩を伴う研究から、醫學領域のみならず人々の日常生活における生と死の領域全般に具體的な影響を持つ生命科學へと變容を遂げた。このような科學の構造轉換の状況において、生命科學を社會の中にあらためて位置づけ、社會の視點を加味した新しい「知」として把握しなおすことが必要である。本研究班では、このような社會的視野と見識を備えた生命の科學に關する新しい捉え方を「生命知」と呼ぶこととし、その創出のために、科學者、社會學者、人類學者、哲學者、歴史學者などが共同で検討を行う。

本年度は、昨年度に引き續き、細胞の機能や生命システムの理解を目指す研究分野をテーマとして取り上げ、情報共有を行うための研究会を開催することにした。

第一回目の研究会では、遺傳子の概念とその名稱の變化についての検討を行い、第二回目の研究会では、生物物理學の手法を用いた生命システムの理解をめざす研究を取り上げた。一月に行つた人文研アカデミーの特別セミナーでは、二〇世紀後半のライフサイエンスの發展を、ゲストの中村桂子氏の講演をもとに多様な分野の参加者にと

もに検討した。現在、報告冊子を作成中である。

九月 八日 第一回研究会

研究報告「科學的用語としての「遺傳」・「遺傳子」の由來」

立命館大学 松原 陽子

一月一六日 人文研アカデミー特別セミナー「ライフサイエンスの半世紀―歴史を振り返り現在を考える―」J T生命誌研究館館長

中村 桂子

大阪大学 CSCD 小林 傳司

京大人文研 加藤 和人

一月二日 五日 第二回研究会

研究報告「細胞のおしいへしあいによる生物の形づくり」

京都大学 iCeMS

杉村 薫

ヨーロッパ現代思想と政治

班長 市田 良彦

公募研究班A「ヨーロッパ現代思想と政治」は、市田良彦・神戸大学國際文化研究科教授を班長とし、全國から計二〇名の班員の参加を得て、二〇一一年四月に發足した。期間は二〇一三年度末までの三年間を豫定している。この研究班の目標は、ポストモダニズム・ポスト構造主義とも呼ばれる、一九六〇年代以來のフランスを中心とするヨーロッパの現代哲學・思想を、現代のマルクス主義、ポスト・マルクス主義の政治運動とのかかわりで批判的に再検討する點にある。その際、特に日本の現代の思想・政治状況との異同の検討にも留意

している。この研究班では四月以來、以下の四回の研究會・講演會を組織した。研究班の問題設定を、第二次世界大戦から現在にいたる政治・思想状況の變動を視野に入れながら、どのように具體化してゆくかが焦點となっている。

四月 八日 市田良彦「問題設定—戦後政治のなかの哲學者群像」
各班員の自己紹介・抱負

六月二四日 Journée de travail Rousseau-Rawls: Histoire, raison, foundation

セリーヌ・スペクトール講演
「ルソー／ロールズ・歴史・理性・創設」および討議

京大人文研(富永茂樹・班長)
「啓蒙とフランス革命—一七九三年の研究」班、北海道大學

(佐藤淳二・研究代表者)「フランス啓蒙思想における〈戦争〉表象と、〈平和〉表象の包括的研究」科研究グループとの共催

六月二五日 佐藤淳二「レ・タン・モデルヌ」創刊直後の政治的布置—サルトル、メルローポンティ、アロン—

崎山政毅「『プレザンス・アフリケーヌ』誌とその周邊」(フランチ・ファンを中心にして)

一〇月 八日 小泉義之「(國家論なき政治論)からドウルーズ／ガタリへ」

信友建志「誰が經帷子を縫ったのか—縫合をめぐるいくつかの事情」(アルチュセール、ラカン、ミレール、ルクレールをめぐって)

このほか、二〇一一年五月一四日(土)には、市田良彦、小泉義之、王寺賢太の班員の参加を得て、人文研アカデミー「政治を考える」セミナーシリーズ—「アルチュセール」を開催した。二〇一一年度中には、さらに二回の研究會のほか、二〇一二年二月五日(日)に、西川長夫『パリ五月革命私論 始まりとしての六八年』の刊行を記念して、人文研アカデミー・シンポジウム「日本から見た六八年五月」を豫定している。

東方學研究部

西陲發現中國中世寫本研究

班長 高田 時雄

一九世紀末以來、敦煌・トルファンさらに東トルキスタン各地の遺蹟から數多くの寫本が発見された。しかし、これらの寫本の研究は、資料の公開整備が格段に進んだこと、寫本研究の方法が嚴密化したことなどにより、近年全く新しい段階に入ったと言える。本研究班では、漢文寫本を中心とし、歴史・宗教・言語・文學など様々な角度から検討を加え、西陲發現寫本の總合的な研究を展開した。なお最終年度の報告は二〇一二年三月に『敦煌寫本研究年報』(第五號)として刊行された。

中國中世寫本研究

班長 高田 時雄

「西陲」班の運営及び成果刊行の方式を、基本的にすべて受け継ぎながら、對象となる寫本の範圍をさらに別の方面に擴大することを主眼とする。擴大のターゲットは主として日本國內の寺社及び圖書館、博物館等に所藏される日本古寫本である。日本古寫本の重要性はこれまで注目を集めていたが、近年の調査によって新たな発見が行われ、その豊富な内容が明らかになるにしたがい、中國の學界でも日本古寫本に對する關心はいよいよ高まっている。さらに同時代の材料として敦煌吐魯番寫本と日本古寫本の比較研究は、中國中世におけるテキストの傳播と變遷を考察する上で重要な視點を提供するものと言える。これら日本國內に傳承されてきた古寫本を取り上げ、より廣いパースペクティブの中で研究を進めることにより、新たな知見が數多く得られることが期待される。

本年四月以降、年末までに班員による以下のような報告を得た。

四月一日 高田時雄「新出李滂資料について」

四月二五日 山口正晃「羽五三《吳安君分家契》について—家産相續をめぐる一つの事例—」

五月 九日 坂尻彰宏「大英博物館藏甲戌年四月沙州妻鄧慶連上肅州僧李保祐狀」

五月二三日 永田知之「陳寅恪論及敦煌文獻雜記—利用経路を中心に—」

六月 六日 藤井律之「和製類書所引《說苑》小考」

六月二〇日 岩本篤志「敦煌における《占雲氣書》」

七月 四日 池田巧「夏譯《論語全解》研究之進展」

八月二九日 夏季大會

本井牧子「敦煌寫本中の『法苑珠林』と『諸經要集』」

大西磨希子「長安宮廷寫經の敦煌傳來をめぐる一考察」

郭永利「甘肅高臺出土幾件前涼、前秦時期的喪葬文書」

遊佐昇「見之悲傷、念之在心——道教の唱導をめぐる」

一〇月二四日 高井龍「敦煌本《祇園因由記》考」

高田時雄「新出の行瑠《內典隨函音疏》に關する小注」

一一月一四日 山本孝子「書儀の普及と利用——内外族書儀と家書の關係を中心に」

岩尾一史「敦煌文書紛れ込み問題小考」

一二月 五日 中村有香「現行本《搜神記》諸本テキストと埋藏文獻について」

荒見泰史「敦煌の喪葬儀禮と唱導」

一二月一九日 辻正博「敦煌・トルファン出土唐代法典文獻研究の現在」

女幸子「《閻羅王授記經》俄藏第一—一七册所收資料整理記——免罪符としての寫經資料」

漢簡語彙辭典の出版 班長 富谷 至

本研究班は、「漢簡語彙辭典」出版にむけての原稿作りをすすめており、現時點での語彙數は四五〇〇字（熟語を含む）。二〇一一年度中に八割の完成を目指す。二〇一一年度の擔當者は以下の通り（排列は擔當順）。

吉村昌之、鷺尾祐、大川俊隆、井波陵一、土口史記、陳捷、劉欣寧、吉川佑資、藤井律之、角谷常子、佐藤達郎、鷹取祐司、森谷一樹

唐代道教の研究 班長 麥谷 邦夫

本研究班は、唐代に撰述された道教教理書、とりわけ佛教教理の影響を強く受けた『玄珠錄』等の解讀を通じて、唐代道教の教理上の特徴を解明することを目的として組織された。本年は、『玄珠錄』および『道體論』の解讀を完了し、引き續いて『三論元旨』の解讀と譯注の作成に着手した。

北朝石刻資料の研究（II） 班長 井波 陵一

一月一七日 齊趙郡李氏碑 矢木 毅

一月二四日 齊趙郡李氏碑 矢木 毅

一月三一日 齊趙郡李氏碑 矢木 毅

二月 七日 齊趙郡李氏碑 矢木 毅

二月一四日 齊趙郡李氏碑 矢木 毅

四月一八日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

四月二五日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

五月 九日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

五月一六日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

五月二三日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

五月三〇日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

六月 六日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

六月二〇日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

六月二七日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

七月 四日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

七月 十一日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

九月二日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

九月二六日 蘭陵忠武王碑 池田 恭哉

一〇月一七日 高翻碑 宮宅 潔

一〇月二四日 高翻碑 宮宅 潔

一〇月三一日 高翻碑 宮宅 潔

一一月一四日 高翻碑 宮宅 潔

一一月二八日 高翻碑 宮宅 潔

一二月 五日 高翻碑 宮宅 潔

長江流域社會の歴史景観 班長 森 時彦
本研究班は、中國の中樞部ともいふべき長江流域社會が如何に形成され、如何に發展して近代世界と向きあうようになり、そして中國社會に如何なる影響を及ぼしてきたのかといった様々な問題を、人文學的、とりわけ歴史學的なパースペクティブから多角的に解明することを目指して、二〇〇八年四月にスタートした。當初は三年計畫の豫定だったが、延長の結果、四年目の本年度が最終年度となった。今年度は特に、地域史・對外關

係史・共產黨史・日中戦争史など、多様な視角から本テーマへの接近を試みた研究報告がなされたが、これは本研究班の主旨に適うものであったと言える。今後は報告論文集のとりまとめに全力をあげたい。

二月 四日 「村委會の舊筆筒の中から現代中國を読む―華北四ヶ村の檔案文獻について」 張 思

二月二五日 「王清穆『農隱廬日記』より見た民國前期江浙紳士の活動について・二」 小野寺史郎

五月二七日 「一九三〇年・上海と武漢―」李立三路線」をめぐって」 江田 憲治

六月一〇日 「植民地と移民ネットワークの相克―辛亥革命期、廈門における英領北ボルネオ移民募集事業を中心に」 村上 衛

六月一七日 「清朝による「裏付け」―雲南南部國境畫定と「國境外」への承認」 望月 直人

七月 一日 「陳炯明廣東統治期の鄉村社會」 宮内 肇

一〇月 七日 「モンゴル留日學生と「滿洲國」」 田中 剛

一一月二一日 「戦時中の重慶で作られた異色な國防映畫について」 韓 燕麗

一一月二五日 「長江流域教案と子ども殺

し」 蒲 豊彦
一二月 九日 「韋君宜と中共湖北委員會」 楠原 俊代

一二月一六日 「都市圖からみた成都の都市空間―世紀轉換期成都の都市プランとコスモロジー」 小島 泰雄
東アジア古典文獻コーパスの研究 班長 安岡 孝一

本年は、三月に豫定されていたOSDH二〇一が震災の影響で九月に延期されたため、それに伴う研究發表の見直しをおこないつつ、漢文コーパスのデータ製作および品詞處理等の共同研究をおこなった。なお、本研究班では、参加者全員が文獻や書籍を見ながら論じ合うというスタイルを取っているため、特定の發表者等は記さないことにする。

一月二一日 OSDH二〇一發表に向けて
二月 四日 OSDH二〇一投稿原稿読み合わせ

四月一五日 科学研究費補助金の配分と今後の研究計畫について
五月二〇日 漢文大系PDF
Gitの新規ディレクトリ製作

六月 三日 Emacs For Mac OS X
反切に關するコーパスデータ検討

六月一七日 Emacs23 (Cocoa Emacs) 入門
から中毒まで (IMEパッチの適用)

七月 一日 OSDH二〇一投稿原稿再讀
み合わせ
複數の Emacs 環境の竝立

上海博物館藏戰國竹書を讀む―中國古代の基礎史料
班長 淺原 達郎

引き続き上海博物館楚簡にとりくんだ。天子建州を讀み(一月二一日～二月四日)、『上海博物館藏戰國楚竹書』第六冊を讀了。二月一日には、容成氏の配列についてまとめた。四月からは、武王踐阼(四月一五日～五月二〇日)、鄭子家喪(五月二七日～六月一〇日)、君人者何必安哉(六月一七日～七月一日)、凡物流形(七月八日～一月四日)、吳命(十一月十一日～二月九日)と讀み進んで、第七冊も讀了した。

『日古』第一七號(四月一日)を發行し、上海博物館藏楚簡・容成氏の讀書札記、容成氏の配列についての概括、および用日配列修正案を掲載した。『日古』第一八號は遅れて、二〇一二年一月發行を豫定している。

術數學―中國科學と占術 班長 武田 時昌
術數學は、自然科學の諸分野と易を中核とする様々な占術とが複合的に絡み合った中國に特有の學問分野である。東アジア世界の科學文化を構造的に把握し、學問的な本質や特色を明確にするには、近代科學の先驅的業績として離散的な發見、發明を時系列に並べて顯彰するだけではなく、當時の科學知識がいかなる役割を擔っていたかを分析的に考察する必要がある。そのような研究を遅滞させている最大の要因は、術數學がほとんど未

開拓のままに放置されているところにある。そこで、術數學を総合的に研究するプロジェクトを立ち上げることにした。

研究の手がかりとして、近年出土した簡帛資料には先秦から漢代に至る科擧や占術に關する論説が満載されていることが注目される。また、日本に残存した『五行大義』『醫心方』や陰陽道資料にも、中世の術數學の佚文が多数引用されており、きわめて有益である。それらの讀解を通して、術數學の全體像を解明し、理論構造の特色を探る。

二〇一一年度は、科擧と宗教、宗教の境界領域にわたる文獻を會讀しながら、術數學の形成と展開を檢討する讀書會を毎月二回行つた。取り上げたテキストは、張衡『靈憲』、虞搏『醫學正傳』、方以智『物理小識』及び『鵬冠子』である。譯注擔當者は、前原あやの、熊野弘子、尾鍋智子、金東鎮である。また、ゲストスピーカーの特別講演と班員による研究發表を行う研究集會を毎月一回開催した。そこでの中心的な論題には陰陽五行説の五音をめぐる考察を取り上げ、『五行大義』卷三、論配聲音や敦煌『宅經』等の讀解を通して、五音が占術理論にどのように應用されているのかを全員で討議した。

なお、中國、韓國で術數學關連の研究を推進している研究者とのネットワークを構築し、國際共同研究プロジェクトを發進させる準備として、本年八月には韓國術數學學會の中心メンバーである李東哲教授（龍仁大學）、全勇勳准教授（ソウル大學奎閣韓國學研究院）の兩氏を招聘し、二〇

一二年に開催豫定の日韓術數學ワークショップの打ち合わせ會を行い、同時に特別講演會を開催した。また、十月から三ヶ月間、研究所の客員教授に招聘した陳松長教授（湖南大學嶽麓書院副所長）に出土簡帛に關する特別講演を行つてもらふとともに、中國古代占術をテーマとする國際集會の開催に向けての協議を行つた。

特別講演・研究發表の演題と發表者は、以下の通りである。

- 一月 八日 「三十六萬小考」 清水 浩子
「敦煌秘笈」中の具注曆日について」 岩本 篤志
- 四月 九日 「五音の數理的考察」 武田 時昌
- 五月 七日 「西洋光學と氣の思想」 尾鍋 智子
- 六月 四日 「蔡邕『天文志』佚文に見られる渾天儀の構造」 小澤 賢二
- 七月 二日 「訓民正音」序文を讀む（上）」 鄭 宰相
- 八月 六日 「訓民正音」序文を讀む（中）」 鄭 宰相
「陰陽道の發見」 山下 克明
- 「一九世紀の韓國に渡來した西洋占星術について」全 勇勳
「韓國における術數學研究の現況と展望」 李 東哲

一〇月 一日 「訓民正音」序文を讀む（下）」 鄭 宰相

十一月五日 「朝鮮の祖先崇拜の起源—高句麗墳墓遺跡調査報告」
ラブチェフ・セルゲイ

「明代後期の「冥」空間に關する一考察—『金瓶梅』を讀み解く」 上 なつき

二月 三日 「中國古代の魂魄について—その概念の變遷をめぐって」 白 飛雲

「長沙馬王堆術數類帛書略説」 陳 松長

なお、三月一三日に大正大學にて術數學東京ワークショップ二〇一一を企畫したが、東日本大地震のために當初に豫定した大規模な研究集會が實施できなかつたが、九月四日に延期して開催した（場所・大正大學（巢鴨校舎）一號館第二會議室）。その特別講演・研究發表の演題と發表者は、以下の通りである。

「流轉する書物—小島寶素堂始末」 多田 伊織
「怪異占と辟邪—中國中世鬼神觀研究の視點から—」 佐々木 聰

「馬王堆出土醫書『雜療方』の復元試案例」 宮川 浩也

「日書の科學知識—先秦方術から術數學へ—」 武田 時昌

「四柱推命における陰陽五行説—實踐の立場から—」 船橋 優希

東アジア地域間交渉と情報 班長 岩井 茂樹

十六世紀の東アジアは社會經濟の轉形期を経験した。日本における銀の増産やポルトガル人を嚆矢とするヨーロッパ人の來航などがその背景をなす。利益の追求に促されて、人々は海洋に乗り出して交易に従事した。「天朝」をもって自認する中國の王朝は海禁と朝貢制度を有力な手段として通交秩序を維持しようとしてきたが、この中國中心の秩序は私的な交易の擴大によって動搖することになる。

この時代、外からの脅威に對處するという觀點から、中國では域外についての知識への希求が高まり、かつてない精度と情報量をもつ著述が出現した。一五五〇年代、蘇州出身の鄭若曾は、倭寇防衛の責務を擔った總督胡宗憲の幕下にあつて、情報の収集と戰略の策定に従事し、『籌海圖編』を編纂した。この共同研究班では、鄭若曾が出身地の蘇州に晩年を過ごした時期に、當局からの要請にもとづいて著述した『江南經略』を素材にして、戰略的觀點からの地域情報、武器や船舶の技術、沙洲の住民、水上居民、「倭寇」や盜賊の情報などの傳播と普及について考察する。この作業をつうじて、轉形期の東アジアの地域間交渉の特質についての理解が深まることを期待している。

報 彙

- 一月二〇日 會讀『江南經略』 兵務學要 攬
- 一月二〇日 權選兵 養兵 植松 正
- 一月二〇日 防々御將 加藤 雄三
- 一月二〇日 會讀『江南經略』 兵務學要 海

二月 八日 會讀『江南經略』 兵務學要 練

二月二二日 會讀『江南經略』 兵務學要 設

五月三二日 會讀『江南經略』 兵務學要 兵

六月一四日 會讀『江南經略』 兵務學要 兵

六月二八日 會讀『江南經略』 兵務學要 兵

七月 五日 研究報告「明代の政策決定プロセスにおける意見集約をめぐる廷議の分析を中心に」

七月 二九日 會讀『江南經略』 兵務學要 重

一〇月一八日 研究報告「明代中朝邊境における補給戰—明朝軍管糧官から見た文祿の役」

十一月 一日 研究報告「十八世紀の日中外交における「日本國王」—「漂海客

文』所收外交文書」

一月二九日 研究報告「十八世紀の日中外交における「日本國王」・補」

二月 四日 船山徹「眞諦『仁王般若疏』佚文の再檢討」

二月 四日 室寺義仁「眞諦による佛教教義理解の側面」

三月 四日 池田將則「眞諦と「攝論宗」について」

三月 一八日 石井公成「眞諦關連文獻の用語と語法—NGSMによる比較分析—」

現在、本研究班の研究報告論文集として『眞諦三藏研究論集』を印刷中である。二〇一二年三月

刊行。

地域化する佛教—研究の視点と可能性

班長 船山 徹

本研究班は東アジアの歴史において重要な役割を果たした佛教の多様な事象を「地域」をキーワードとして読み解き、研究上の新たな視点を模索しようとする試行的研究班である。二年間のうち、初年度である本年はまず、各班員の研究報告を聞き、多様な領域の研究でいま何が問題とされているかを理解し、知識を相互に共有することを目指した。具體的には以下の報告が行われた。

四月一五日 船山徹「研究班「地域化する佛教—研究の視点と可能性」趣旨説明」(話題提供) 佛教の中國化 Sinfication of Buddhism に ついて

五月 六日 村田滯「六朝隋唐期の佛典書寫をめぐる思想的考察」

五月二〇日 石井公成「佛・法・僧を笑ひ樂しむ傳統—漢譯佛教諸國における佛教非聖化の諸例」

六月 三日 金文京「『法没盡經』に見えるインドから中國への三聖派遣遺説について」

六月一七日 朱岩石「魏晉南北朝都城の佛教遺跡の發見について」
 麥文彪「佛教マントラの中國化

—普庵咒における varṇamāla (サンسكريットの字母表) について」

七月 一日 岡村秀典「中國初期佛教文物とその源流について」

河上麻由子「唐の皇帝の受菩薩戒—武后・中宗・睿宗朝を中心に—」

七月一五日 向井佑介「佛塔の中國的變容」
 七月二九日 熊谷誠慈「ボン教における佛教思想の受容」

なお九月から十二月は班長の海外出張(プリンストン大學)により研究班を休會せざるを得なかったが、二〇一二年一月から研究班の隔週開催を再開する。

中國古鏡の研究

班長 岡村 秀典

紀年鏡銘の集成と注釋を作成したほか、漢・三國・西晉時代の鏡とその關連文物にかんする研究發表をおこない、三月をもって本研究班は終了した。前年の研究成果は『東方學報』京都第八六冊に後漢鏡と三國西晉鏡の銘文にかんする論文二本と集釋二本を掲載し、二〇一二年刊行豫定の『東方學報』には紀年鏡の集釋一本とその關連論文三本を投稿する豫定である。また、共同研究の話題として『人文』第五八號に岡村「古鏡研究と收藏家たち」を載せた。研究會の會讀と研究發表は以下のとおり。

一月 一日 紀年鏡銘の會讀 光武 英樹
 一月 一八日 敦煌における西晉・十六國時代

の壁畫墓 郭 永利

一月二五日 紀年鏡銘の會讀 光武
 二月 一日 後漢華西鏡群の研究 森下 章司

二月 八日 紀年鏡銘の會讀 光武
 二月 一五日 後漢鏡における淮派 原田 三壽

三月 八日 紀年鏡銘の會讀 光武
 三月 一五日 紀年鏡銘の會讀 光武

三月 二二日 漢三國西晉紀年鏡における作鏡日と干支記述の變化 光武

三月 二九日 紀年鏡銘のまとめ 岡村

東アジア初期佛教寺院の研究 班長 岡村 秀典
 東方文化研究所が一九三八—一九四四年に調査した中國山西省雲岡石窟について、京都大學デジタルアーカイブでの畫像公開を目的に、ガラス乾板の寫眞を石窟ごとに整理した。あわせて班外からゲストスピーカーをまねいて講演會を実施した。また、三月に水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全一六卷三三冊、一二月に同『龍門石窟』、『響堂山石窟』のPDFを京都大學學術情報リポジトリに公開した。開催した研究會は以下のとおり。

一月 一日 雲岡石窟第五洞 田中 健一
 一月 二五日 雲岡石窟第五洞 田中
 二月 八日 中國南北朝期の佛教供養者像 石松 日奈子

(清泉女子大學文學部講師)
 三月 八日 雲岡石窟第五洞 田中
 三月 二二日 雲岡石窟第五洞 田中

四月二二日	雲岡石窟第五洞	田中	一月二二日	坂井田夕起子「戦後中國の佛教外交―世界佛教徒會議をめぐって」	論とその命脈
四月二六日	雲岡石窟第五洞	田中		久保佳彦「國民革命軍における政治工作について」	
五月一〇日	雲岡石窟第五洞	田中		瀧田豪「近年の「農村社區建設」について」	
五月二四日	雲岡石窟第六洞	田中	二月一八日	田邊章秀「民國初期縣知事兼理司法制度における「判決」と上訴の問題」	一月 四日 瀧田豪「近年の「農村社區建設」について」
六月一四日	雲岡石窟第六洞	田中	三月 四日	宮原佳昭「一九三〇年代における「讀經」運動と湖南教育界」	一月一八日 田中剛「老華僑と新華僑のあいだ・元「蒙疆政權」派遣學生から見た戦後日本の中國人留日學生」
六月二八日	雲岡石窟第六洞	田中	四月二二日	石川禎浩「中國近現代史研究における革命史の位置」	二月 二日 「近代中國と冒険・探検」
七月二二日	南北朝佛寺遺址考古學研究	朱 岩石	五月二〇日	瀬戸宏「戦後日本の現代中國研究と現代中國學會」	南アジア北邊地域における文化交流の諸相
七月二六日	雲岡石窟第六洞	田中	六月 三日	吉田豊子「第二次世界大戦末期國民政府の對ソ政策・アルタイ事件からウォレス使節團訪中の前後まで」	二〇一一年は、研究班のテーマに従った研究報告と、一世紀にペルシア語で書かれた史料の中央アジアおよび南アジアに關する記述の會讀を併せて行った。詳細は以下の通り。
九月二七日	雲岡石窟第六洞	田中	六月二四日	都留俊太郎「一九三〇年代前半の臺灣島内における政治運動と對外膨張―臺北における臺灣人商工業者の活動を中心に」	一月一四日 宮本亮一 會讀 Zayn al-Akhhār
一〇月一一日	雲岡石窟第六洞	田中	七月 八日	葉倩瑩「清末中國における「借材異國」方策の試み」	二月二二日 稻葉穰 研究報告「悟空（車奉朝）の入竺路について」
一〇月二五日	雲岡石窟第六洞	田中	九月三〇日	袁廣泉「清末以降民國期の北戴河海濱における「自治」の様相」	三月二五日 吉田豊 研究報告「ソグド人と遊牧民」
一〇月二二日	雲岡石窟第六洞	田中	一〇月二二日	伊丹明彦「一九二九年の中東鐵道事件前後における、中ソ友好	四月二三日 二宮文子 會讀 Zayn al-Akhhār
					五月一三日 杉山雅樹 會讀 Zayn al-Akhhār
					五月二七日 上枝いづみ 研究報告「ガンダーラの佛傳圖像の考察―太子時代のレスリングを中心に―」
					六月一〇日 杉山雅樹 會讀 Zayn al-Akhhār
					六月二四日 二宮文子 研究報告「北邊地域

とインドの接点Ⅱ…デリー・サルタナト前半期の獨立勢力を中心に」

七月 八日 船山徹 研究報告「隋代の佛教系散佚書『耶舍傳』と同佚文より知られるインド關連の記載について」

七月二二日 岩尾一史 研究報告「古代チベット帝國の軍事制度再考」

九月 九日 岩尾一史 調査報告「ミーラーン・敦煌調査記」

稲葉穰 調査報告「シュグナーン・パミール調査記」

一〇月一四日 川本正知 研究報告「チャガタイ・ハン國、カラウナス、インド」

一〇月二二日 二宮文子 會讀 Zayn al-Akbar

一一月一日 杉山雅樹 會讀 Zayn al-Akbar

一一月二五日 井谷鋼造 研究報告「アーデーリーヤ妃の絞殺—ルーム・セルジューク朝とアイユーブ朝交渉史上の一事件—」

一二月 九日 稻葉穰 會讀 Zayn al-Akbar
班長 金 文京

元代雜劇の研究
本年度は『元刊雜劇三十種』のうち、「鯁直張千替殺妻」を講讀し、校勘記、注釋、翻譯および語彙集を作成した。またこれまでに講讀した「古

杭新刊關目的本李太白貶夜郎」および「新編關目晉文公火燒介子推」の校勘、譯注原稿を整理し、解題と語句索引を付して、『元刊雜劇の研究（二）—貶夜郎・介子推—（汲古書院 二〇一二年五月）』として刊行した。

人文學研究部
トラウマ經驗と記憶の組織化をめぐる領域橫斷的研究—ナラティブからモニュメントまで—

班長 田中 雅一

初年度はメンバー間で基本的な問題を共有することに徹し、ある程度達成できた。このため二年目はトラウマ研究で目覚ましい成果をあげている研究者五名を招聘し、発表をお願いした。また後期では若手研究者や大学院生を中心にハーマンの『心的外傷と回復』會讀を企畫した。いくつかの研究發表を通じて三月一日の東日本大震災によって生じた多大な被害やその後の心的外傷問題は、本研究でも取り組まなければならない課題であることを認識した。

二月一四日 有蘭眞代「野蠻な過去とトラウマ—一九五〇年代日本のアサイラム空間における〈文學〉と〈政治〉」

西眞如「不確かな生…エチオピアにおけるHIV不一致カップルの經驗」

四月二一日 田中雅一「昨年度のトラウマ研活動をふりかえって」
菅原和孝「出来事はいかにへい

まここ」に立ち現われるか…狩獵採集民グイの談話分析から」
高木光太郎「證言を「聴く」とその技法…刑事事件における捜査・裁判を事例として」
濱田壽美男「人が「過去の出来事」を語るというとき、實のところ、何を語っているのか…裁判のなかの四つの語りから」

五月 九日 高橋正實「元特攻隊員の回想…エリクソンの見地からの分析」
Last Kamikazeの上映

五月三〇日 三田牧「あの日、あの場にいた、あの人を想起する…出會い損ねてきた「他者」との對話を求めて」

小田博志「ホロコーストと「和解」…ブラハの事例を通して」

六月 六日 宮地尚子「環狀島モデルからみえてくること…東日本大震災という文脈」

『環狀島』トラウマの地政學
書評會コメントター…萩原卓也 花田里歐子 石井美保

六月二〇日 田中雅一「トラウマ經驗とインナーチャイルド…セックススワーカーのライフ・ストーリー調査から」
岡田浩樹「トラウマの解體に抗

移民の近代史

一月 八日 (報告) 金永哲「朝鮮人滿洲農

班長 水野 直樹

して…日本社會の『多文化化』における在日コリアンの再歸性」

七月二日 渡邊文「藝術家になるために…ライフ・ストーリーからみる苦惱の経験」

田邊明生「生きのびて在ることの了解不能性…インド・パキスタン分離獨立時の暴力の記憶と日常生活」

一〇月三十一日 石井美保「語らないで在ること」と「*Unseen*」の肯定…フェイス・サルベイション教會における癒しの儀式にみる女性信者の苦惱と救済」

福西加代子 會讀『心的外傷と回復』一、二章

一一月一四日 小池郁子「奴隸という」[經驗]…アフリカ系アメリカ人のトラウマとオリシャ崇拜運動」飯塚真弓 會讀『心的外傷と回復』三、四章

一二月一九日 窪田幸子「ナショナルな歴史となつたトラウマ―先住民の経験」

河西瑛里子 會讀『心的外傷と回復』五、六章

班長 水野 直樹

業移民政策の衰退過程―滿洲開拓政策基本要綱」の策定(一九三九年)から終戦(一九五四年)まで」

(報告) 鄭鍾賢「植民地時期(一九一〇―一九四一)京都帝國大學の朝鮮人留學生研究」

二月二日 (報告) 坂本悠一「門司釜山労働共済會小論―海峽を跨ぐ『職業紹介』團體とその擔い手たち」

(報告) 安岡健一「近代日本における人と土地の結びつき―外國人の土地所有という視點から」

三月一二日 共同研究のまとめについて 日本の文學理論・藝術理論 班長 大浦 康介

本研究會では、三月一四日に準備會を開いたあと、四月から、おもに明治以降の主要な文學・藝術理論關係の文獻を班員全員で読み、それについて討論するという形式で研究會を開催した。内容は以下のとおり。

四月一八日 上田眞「日本の文學理論―海外の視點から」を読む(一)(岩松正洋擔當)

五月 九日 上田眞「日本の文學理論―海外の視點から」を読む(二)(岩松正洋擔當)

五月二三日 漱石の『文學論』をめぐる

(大浦康介擔當) 六月 六日 岡崎義恵「文學學概論」を読む(一)(河田學擔當)

六月二〇日 岡崎義恵「文學學概論」を読む(二)(河田學擔當)

七月 四日 「筋のない小説論争」をめぐる(日高佳紀擔當)

九月一九日 竹内敏雄「文學學序説」を読む(一)(久保昭博擔當)

一〇月 三日 竹内敏雄「文學學序説」を読む(二)(久保昭博擔當)

一〇月一七日 小西甚一「日本文藝史―別卷 日本文學原論」を読む(一)(重田みち擔當)

一一月 七日 小西甚一「日本文藝史―別卷 日本文學原論」を読む(二)(重田みち擔當)

一一月二日 野家啓一「物語の哲學」を読む(齊藤涉擔當)

一二月 五日 鈴木貞美「日本の『文學』概念、『日本文學』の成立」を読む(大浦康介擔當)

一二月一八日 『日本文學からの批評理論』をめぐるミニシンポジウム (ゲスト…高木信、木村朗子、安藤徹)

日本・アジアにおける差異の表象 一月 八日 第一回 班長 竹澤 泰子

「日系／アジア系アメリカ人の人種表象」

場所：京都大学東京オフィス

Introduction Yasuko Takezawa
Gary Okihiro "Asian/Japanese Americans and the U.S. Social Formation"

Fuminori Minamikawa "Ver-nacularizing Racism: Japanese Immigrants and the Language of Race"

Michael Omi "The Unbearable Whiteness of Being: Representations of Japanese/Asian Americans in Contemporary Sociological Theory"

Sachiko Kawakami "Postcolonial Nihonmachi: Commodifying Racial Differences in the Age of Globalization"

Mari Matsuda "Japanese Americans and Progressive Political Identity: Intergenerational Portraits"

Comments: Eitichiro Azuma and Masumi Izumi

一月一〇日

第二回
「日系／アジア系アメリカ人の人種表象」

会場：人文科学研究所

Introduction Yasuko Takezawa
Michael Omi "Colorblind?: The Contradictions of Racial Classification"

Comments: Mari Matsuda
Charles Lawrence "Critical Race Reconstructions: Japanese/Asian-American Interventions (narratives) in the Black-White Binary of American Racial Discourse"

Comments: Gary Okihiro (Columbia University)

一月二二日

第三回
「人文学とゲノム研究のインターンフェイス」人類学研究交流会へ共催

場所：京都大学人文科学研究所
Introduction Kazuto Kato

Duana Fullwiley "Between Political Equality and Human Biological Difference: Interpreting African Genetic Diversity in American Genome Science"

Amy Hinterberger "Biomedical Genomics, Identity and National Politics"

Shirley Sun "Exploring the Pur-

chases and Pitfalls of a Pan-Asian framework in Human Genetics Studies"

Katsushi Tokunaga "Genome Diversity and Regional Differences in Disease Genes"

一月三十一日

第四回
「人文学とゲノム研究のインターンフェイス」

場所：京都大学人文科学研究所
Michael Montoya "Beyond the critique: How understanding genomic racialization can improve disease research"

Hiroki Ota "How should we think of "population" in population genetics?"
Comment: Troy Duster

二月十九日

第五回

場所：人文科学研究所
板垣龍太「現代日本のレイシズム點描―朝鮮學校への攻撃・排除を事例に」

戸邊秀明「沖繩研究の變貌と「沖繩人」という問題構成の現在―近現代史研究者の視點から」

三月二十五日

第六回
「文理融合ワークショップ」「沖

縄人の表象をめぐって」人類学
研究交流会と共催

場所・沖縄県立博物館

大城将保（沖縄国際大学）「沖

縄の歴史―平和・自立・共生へ
の道」

三月二十六日

第七回

「文理融合ワークショップ」「沖
縄人の表象をめぐって」

場所・ホテルグランビューガー
デン沖縄

山口 徹（慶應大学）「石垣島

名藏地区の長期的景観史研究」

新里貴之（鹿児島大学）「貝塚

時代後期前半（彌生時代）古墳

時代並行期」の文化と社会」

土肥直美（元琉球大学）「人骨

形質から見た沖縄人」

木村亮介（琉球大学）「ゲノム

人類学にみるウチナンチュの特

徴」

三月二十七日

第八回

「文理融合ワークショップ」「沖
縄人の表象をめぐって」

場所・ホテルグランビューガー
デン沖縄

前高西一馬（早稲田大学）

「The Okinawan Reality Show」

揺れる「沖縄人」、掠れる「沖

縄口」

成田龍一（日本女子大学）「占

領期日本における「混血」表象

をめぐって」

高みか（早稲田大学）「抵抗す

る映画―映画の中の沖縄表象」

六月二十八日

第九回

関口寛（四国大学）「20世紀初
頭の社会福祉における人種主義
と部落問題」

コメント：金仲燮（人文科学研

究所／慶尚大学）、通譯：李昇

燁（佛教大学）

タカシ・フジタニ（同志社大

学）「小林よしのり漫画に描か

れる天皇・植民地帝国・レイシ

ズム（Emperor, Empire, and

Race in Kobayashi Yoshinori's

Manga World）」

コメント：成田龍一（日本女子

大学）、北原恵（大阪大学）

第一〇回

七月五日

海外学会発表：国際人類学民
族学連合大会 セッション

「Changing Representations of

Indigenous and Migrant Groups

in Globalizing Japan: Genes,

Bones, and Cultures」

場所：西オーストラリア大学

Kazuma Maekawashi (Waseda

University) "Save As History:

Jinrikuan Incident in Okinawan

Modernity"

Noriko Seguchi (University of

Montana) "Differences in the

Prevalence of Tuberculosis

Mortality Among the Ainu and

the Ethnic Japanese during the

Early Twentieth Century:

Socio-Economic and Political

Structural Influences"

Shunwa Honda (Henry

Stewart) (Open University of

Japan) "The Ainu of Japan in

the Indigenous Movement:

International and Domestic-

Aspects"

Masako Kudo (Kyoto Women's

University) "Being the Muslim

"Other" in Japan: The Experi-

ences of Pakistani Muslims and

their Japanese Wives"

Yasuko Takezawa (Kyoto Uni-

versity) "The Lesson of the

Great Kobe Earthquake and

Changing Representations of

Multicultural Coexistence in

Japan"

七月三〇日

Hiroki Ota (Kirasato University) "How Do Physical Anthropologists Have Committed Themselves on Genome Medicine?"

第一一回

合宿研究会

場所：KKRびわこホテル

南川文里、河上幸子、工藤止子、日下涉、竹澤泰子、岩淵功一、高みか、前高西一馬、「混血」について デイスカッション

七月三一日

第二一回

川島浩平、坂野徹、加藤和人、齊藤綾子、北原恵、金仲燦、關口寛

「科学と社会」デイスカッション、「見えない人種」デイスカッション、全體デイスカッション

一〇月三三日

第三一回

UCLA 合同主催 シンポジウム "Japanese and Asian Americans: Racializations and Their Resistances"

場所：University of California, Los Angeles
Lane Ryo Hirabayashi (UCLA)
Welcome speech

Yasuko Takezawa (Kyoto University) Introduction
Part I

Gary Okihiro (Columbia University) (co-authored with Daniel Varella) "Racial Formation in the Representations of Japanese in Early American Cinema"

Fumihori Minamikawa (Ritsumeikan University) "Vernacular Representation of Race and the Making of an Ethno-racial Community of Japanese in Los Angeles"

Yuko Matsumoto (Chuo University) "Gender and Racial Representation: the Japanese Immigrant Community in Los Angeles before World War II" Comments (Valerie Matsumoto, UCLA) & Discussion
Part II

Lon Kurashige (University of Southern California) "Race and Conflict in the Study of Japanese Americans"
Eichiro Azuma (University of Pennsylvania) "The Making of

Japanese Racial Identity in America, and Why Are There No Immigrants in Postwar Japanese American History?"

Karen Ishizuka (UCLA) "Barfoot Journalists and the Making of Asian America, 1969-1974" Comments (Lane Ryo Hirabayashi, UCLA) & Discussion

一〇月三四日

第三一回

UCLA 合同主催 シンポジウム "Japanese and Asian Americans: Racializations and Their Resistances"
場所：University of California, Los Angeles

Part III
Michael Oni (University of California, Berkeley) "The Unbearable Whiteness of Being: Representations of Japanese/Asian Americans in Contemporary Sociological Thought"

Wesley Uemten (San Francisco State University) "The Nakayoshi Group: Post-War Okinawan Immigrant Women Articulation of Okinawan Identity"

ity in America”

Yasuko Takezawa (Kyoto University) “Japanese American Artists With and Against Representations: An Anthropological Study”

Duncan Williams (University of Southern California) “Japan/America: Mixed Race History and Prospects”

Sachiko Kawakami (Kyoto University of Foreign Studies)

“What Brings Korean immigrants to Japantown?: Commenting Racial Differences in the Age of Globalization”

Comments (Clement Lai California State University, Northridge) & Discussion

十一月十九日

第一五回

合宿研究会

場所：KKRびわこホテル

川島浩平、關口寛、前高西一馬

北原恵

「見えない人種」デイスカッション、「混血」デイスカッション

十一月二〇日

第一六回

加藤和人、日下涉、河上幸子、

南川文里、竹澤泰子

「科學と社會」デイスカッション、総合デイスカッション

十二月三日

第一七回

金仲燮(慶尚大學校) “The Hyongpyongsa: The Abolition of Social Discrimination against Paekjong”

松本ますみ(敬和學園大學) 「見えない人種」と中國國民統合のポリテイクスー 『中華大家庭』表象のエスニシティとジェンダー

石井美保(京都大學) 「不浄」から「野生の聖」へー南インドのブータ祭祀におけるヒエラルキー、憑依、環境ネットワーク

十二月四日

第一八回

大濱郁子(琉球大學) 「牡丹社事件」にみる人種表象

班長 高木 博志

報告：岩城卓二「城下町尼崎と土族の一九世紀」

丸山宏「三都論」と「三府論」報告：黒岩康博「南都」・「古京」・「平城京」―宮址保存と奈良―

近代古都研究

一月二二日

三月二二日

三月二二日

福家崇洋「一九五〇年代京都における高山市政の一断面」

四月一六日

報告：高久嶺之介「明治期京都を訪れた外國人皇族たち―ロシア・オーストリア・暹羅(シヤム)の皇族たち―」

藤原學「露伴・荷風・潤一郎の東京論」

五月二八日

報告：中嶋節子「京都における風致地區指定の経緯と重層する意圖をめぐって―關與した人物からの検討と接續する事項との關係―」

中川理「技術者・町組織など多様な觀點から捉える京都の都市改造」

六月一八日

報告：清水重敦「社寺建築の造營からみた近代京都―創建神社を中心に―」

河西秀哉「大正・昭和期における京都御所・御苑」

七月二三日

報告：谷川穰「明治期京都における佛敎をめぐる諸相」

田中智子「近代日本」教育據點―配置をめぐる文部省と府縣―高等中學校設置問題の基礎的考察―

高木博志「歴史都市と修學旅行―一九一〇年代の奈良女子高等師範學校の事例―」

第一次世界大戦の総合的研究 班長 山室 信一

岡田 曉生

本年は一五回の研究会を開催した。通常の報告が七回。とりわけアジアと大戦という問題に力點が置かれた。次に二〇一〇年から始めた小シンポジウムが二回。ここでは、これまでの研究成果を踏まえた上で、研究班の新たな展開を探る試みがなされた。最後に、本年の活動の特徴づけるものとして合評會が挙げられる。これは、シリーズ「レクチャー 第一次世界大戦を考える」(人文書院)が、二〇一〇年から二〇一一年にかけて六冊出版されたことをうけたものである。なおこの合評會は公開とし、研究成果の社會還元にも努めた。

- 一月 八日 松沼美穂・一九一七年春のフランス軍兵士の「反亂」
- 一月二四日 板橋拓己・ドイツ、中歐、ヨーロッパ統合―結節點としての第一次世界大戦
- 二月二二日 小シンポジウム 小關隆・藤原辰史・「未完の戦争」としての第一次世界大戦(パネラー 津田博司)
- 四月 九日 鈴木董・第一次世界大戦前夜までのオスマン帝國―帝國・政治社會・國際關係
- 四月二三日 合評會 藤原辰史『カブラの冬』をめぐる(評者 服部伸)
- 五月一六日 立木康介・戦争神經症と表象の終焉

五月三〇日 合評會 岡田曉生『クラシック音楽』はいつ終わったのか?』

をめぐる(評者 片山杜秀)

六月二日 合評會 山室信一『複合戦争と總力戦の斷層』をめぐる(評者 小島亮、小野寺史郎)

七月二日 奈良岡聰智・外交指導者としての加藤高明―二十一ヵ條要求問題を中心として

九月二四日 合評會 河本真理『葛藤する形態』をめぐる(評者 高階繪里加)

一〇月 八日 合評會 久保昭博『表象の傷』をめぐる(評者 塚原史)

十一月 五日 小シンポジウム 王寺賢太・「西洋の没落?―思想史のなかの第一次世界大戦(パネラー 田邊明生、池田浩士、森本淳生)

十一月二二日 合評會 小關隆『徵兵制と良心的兵役拒否―イギリスの第一次世界大戦經驗』(評者 後藤春美、草光俊雄)

十一月二八日 小野寺史郎・第一次世界大戦中の中國人勞働者研究の現在

十二月一〇日 早瀬晉三・マンダラ國家から國民國家へ―東南アジア史のなかの第一次世界大戦

- 王權と儀禮 班長 藤井 正人
- 王權と儀禮との關係を古代インドの王權儀禮を

中心に研究することを目的とした本共同研究は、二〇一一年三月で終了した。ヴェーダ文獻を基礎資料にしたが、インド學の諸分野のほか、言語學、歴史學、考古學、美術史、人類學などの複數の視點から資料を分析するとともに、さまざまな時代と地域における王權と儀禮に關わる問題を比較研究の對象とした。研究成果として、ヴェーダ王即位式關係資料のうち未譯のもの二種に關して、校訂原典と英譯に詳細な解説と索引を付した英文の研究書の出版を準備している。

一月一四日(會讀三四「再讀一〇」)

Yadhya-Srautasutra 一〇、三、

二九七 小林 正人

一月二八日(會讀三五)

Yadhya-Srautasutra 一〇、一

四、四六七六 大島 智靖

三月 四日(會讀三六「再讀一一」)

Yadhya-Srautasutra 一〇、四、

一三三 堂山英次郎

灌頂と即位の文化史 班長 藤井 正人

本共同研究(二〇一一年・四二〇一四・三)は、

共同研究「王權と儀禮」(二〇〇五・四二〇一一年・三)を進展させるため、テーマを新たにして發足させるものである。前共同研究では王權とそれに關わる儀禮全般を對象としてきたが、この共同研究では、古代インドなどにおいて即位や入門の儀禮で中心的な行爲となっている「灌頂」に焦點をあて、その行爲の基本形態、類型、變化、傳播、異文化との混交などに關して、文化史的アプローチ

ローチから研究する。廣範圍の地域と時代にわたる文化事象として、古代インドの、王即位式をはじめとするさまざまな祭式に現れる「灌頂」から、インド、中國、日本の佛教の入門入信儀禮における「灌頂」、さらには、天皇の即位儀禮としての「灌頂」などが研究の対象となりうる。

研究方法としては、各種事例の比較研究を進めるとともに、他分野の研究者に負擔をかけない形で文献資料の基礎研究をも行なう。具體的には、課題に關する研究報告を集中的に行なう「研究集會」と、古代インドの王即位式に關するサンスクリット資料の校訂と譯注を行なう「會讀」という二種の研究會を、切り離した形で開催して研究を進める豫定である。

四月 一日 (會讀) Yadhula-Srautasutra
一〇、一五、一二七
梶原三恵子

二月 九日 (會讀) Tattirya-Brahmana
一、七、三、一四 横地優子
古典のなかのアジア史 班長 籠谷 直人

三月 古典のなかのアジア史 研究報告 名古
屋大學出版會より刊行することが決定
色道書の言語をめぐる文明史的研究 班長 横山 俊夫

安定社會が閉塞せず、文にして明なる状態に赴くかどうかは、その社會を構成する諸要素を適切に交わり續けさせる媒介があるかどうかによる。とりわけ問われるのは、言語がはたす媒介機能である。この研究では、一七世紀末からの安定期の

京、大坂に榮えた丸腰の閉鎖空間である遊里を、文明化の要素をはらむ安定社會のいわば小規模實驗例と見立て、そこでの言語の虚實柔剛明暗を觀察、そのはたらきの人類史的價値について考える。資料として、西水庵無底居士の『難波鉦』(大坂、一六八〇)を選び、そこに記された言語の諸相を文明化とのかかわりで検討する。そのことにより、當班の舊組織「文明と言語」班が試みた同書の校訂試譯を修補するとともに、未校部分を加え、獨目の意味づけを持たせた一篇を編もうとしている。三年目は、傾城や大盡よりも、媒介としての働きが期待される人びとの言語に注目する機會が増えた。なお、『難波鉦』輪讀以外の研究報告では、各班員が屬している多様な現代學術分野での特殊な言語習慣の文明史的批評を提起した。

また、本年は上記「文明と言語」班の報告書の最終入稿に向けて、當研究班の成果もとり込むかたちで、共同編集作業を遂行した。その結果、『ことばの力―あらたな文明を求めて―』が、平成二三年度末に、人文科學研究所ならびに京都大學學術出版會から刊行することになった。

班員：岩城卓二、菊地曠、古勝隆一、武田時昌、田中祐理子(以上、所内) 梶茂樹、木村大治、鹽瀬隆之、全容範、田邊明生、松田文彦、山極壽一(以上、學内) 上村多恵子(日本エッセイストクラブ)、遠藤彰(立命館大)、後藤靜夫(京都市立藝術大)、齋藤清明(文筆業)、廣瀬千紗子(同志社女子大)、深澤一幸(大阪大)

一月一七日 加藤和人論文「パソナルゲノ

ム時代の人間を語る言葉」をめぐる座談會
擔當：加藤、木村、齋藤、田邊、松田、横山
一月二三日 「難波鉦」(品定 君川)〈初髻まん太夫〉 古勝
「韓民族藝術祝祭瞥見―民俗藝能の保存活用をめぐる日韓比較」 菊地

二月二六日 「エネスコ無形文化遺産になるということ―奥能登アエノコトの二一世紀」 菊地
「ゲノム解析と新豫防醫學―長濱市での試み」 松田
三月一九日 「難波鉦」(戀手引 あげやん) 横山
「今西自然學における地圖と言語」 齋藤

五月 七日 「展示見學・ウメサオタオ展」(國立民族學博物館)
五月一四日 「講演・中國古代の都市・國家・青銅器」小南一郎氏(泉屋博古館)

五月一八日 「鼎談・梅棹文明學をめぐる」やなぎみわ氏、山極、横山、ほかに新潮社「考える人」編集部より河野通和氏、辛島美奈氏(同誌夏號掲載)
五月二八日 「大興安嶺探検」とマル秘「調

- 「査隊報告書」 齋藤
 「廓の言葉」 廣瀬
 六月二日 「難波鉦」〈回文 むらさき〉 深澤
 「梅棹時代の社會人類學共同研究班オーブンリール録音テープ」 菊地
 六月二日 「難波鉦」〈雲井月 遣手〉 後藤
 「報告書『文明化と言語力(假題)』序文案」 横山
 七月九日 「講演・色道手引きを讀む―『難波鉦』」 横山(人文研アカデミー夏期講座)
 八〇一〇月 上記報告書編集のため、各章の文體推敲は、執筆者と横山がそれぞれ數次にわたり共同。座談會記録編集は松田、横山が擔當。また書籍化全般については京都大學術出版會編集部、鈴木哲也氏、福島祐子氏、當方は菊地、横山が擔當。
 (おもな推敲作業は、八月 加藤、木村、齋藤、田邊、松田、山極、後藤、倉島哲、九月 遠藤、深澤、一〇月 後藤、廣瀬、齋藤、倉島、菊地、十一月 加藤)
 一〇月二五日 「ことばの力―あらたな文明を求めて」出版準備共同作業拾遺 横山
 「横山報告評・インタラクシオン研究の立場から」 木村
 一二月二五日 「講演・文樂における義太夫節の傳承と稀曲」 後藤
 「講演・『播州皿屋敷』の成立と上演史」 神津武男氏
 「演奏・播州皿屋敷 青山館の段」豊竹嶋大夫氏 鶴澤團七氏(京都府立文化藝術會館)
 一二月二五日 「難波鉦」〈諸手繩 はつしま〉 横山
 「難波鉦」校訂譯本出版について 廣瀬
 啓蒙とフランス革命・E―一七九三年の研究 班長 富永 茂樹
 本研究班では二〇一一年にはフランス革命期、とりわけいわゆる恐怖政治期のテキストの會讀を進めるとともに、研究報告、講演會、合評會を實施した。その内容および擔當者は以下のとおりである。
 一月 七日 會讀・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」①(王寺 賢太)
 二月 四日 會讀・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」②(王寺)
 二月 四日 會讀・ロベスピエール「共和國的狀況について」③(谷田 利文・橋本周子・藤井俊之)
 二月 八日 會讀・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」④(上野 大樹)
 三月 四日 會讀・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」⑤(阪本 尚文)
 四月 二日 研究報告・「『恐怖』のはじまり」(富永茂樹)
 四月 二日 公開講演會・Montesquieu et la crise du droit naturel moderne. L'exégèse straussienne. (Céline Spector)
 四月 二九日 合評會・「富永茂樹『トクヴィル』現代へのまなざし」(松本 禮二・佐藤淳二)
 五月 六日 會讀・I・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」⑥(阪本)
 五月 二〇日 會讀・II・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」⑦(前川眞行)
 五月 二〇日 會讀・III・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」⑧(前川)
 六月 三日 會讀・IV・ロベスピエール「共和國の政治狀況について」⑨(前川)

六月一七日	會讀・ビヨールヴァレンヌ「公安委員會の獨裁樹立」④(前川)	中心とした活動を行った。また、近代日本を訪れたヨーロッパ人のみならず同時期に歐米に渡った日本人の旅をも対象に含め、文化接觸と交流の場としての近代に關する研究を進めた。	六月一三日	會讀 <i>Notes sur le Japon, la Chine et l'Inde</i> (Charles de Chassin)	
七月一日	會讀・ビヨールヴァレンヌ「公安委員會の獨裁樹立」⑤(前川)	一月二四日	幕末明治初期日本關係歐文報告書の檢討	七月二五日	會讀 <i>Notes sur le Japon, la Chine et l'Inde</i> (Charles de Chassin)
七月一五日	會讀・ビヨールヴァレンヌ「公安委員會の獨裁樹立」⑥(前川)	一月二六日	Andrew Elliott 研究報告「Anglophone Travelogues and the Japanese Interior, 1852-1899」	九月二六日	會讀 <i>Notes sur le Japon, la Chine et l'Inde</i> (Charles de Chassin)
九月三〇日	會讀・ビヨールヴァレンヌ「公安委員會の獨裁樹立」⑦(前川)	二月一六日	吉永進一 研究報告「大乘協會とその周邊〜大正時代の歐米人佛教徒たち」	一〇月一〇日	會讀 Heco, Joseph, <i>The Narrative of a Japanese: What He Has Seen and the People He Has Met in the Course of the Last 40 Years</i> (1895)
一〇月二一日	會讀・ロベスピエール「政治道徳の諸原理について」①(上田和彦)	二月二一日	會讀「The logbook of the captain's clerk: adventures in the China seas」	十一月二日	會讀 <i>The Narrative of a Japanese: What He Has Seen and the People He Has Met in the Course of the Last 40 Years</i> (1895)
十一月四日	會讀・ロベスピエール「政治道徳の諸原理」②(上田)	二月二三日	橋本順光 研究報告「エドウィン・アーノルドの日本紀行とその受容」		
十一月二五日	會讀・ロベスピエール「政治道徳の諸原理」③(上田)	三月二日	林信藏 研究報告「カフェを舞臺とした文學作品から見る日本の西歐化—永井荷風を中心として」	十二月二日	會讀 <i>The Narrative of a Japanese: What He Has Seen and the People He Has Met in the Course of the Last 40 Years</i> (1895)
十二月二日	會讀・ロベスピエール「政治道徳の諸原理」④(上田)			十二月二九日	書評 眞銅正宏著『近代旅行記の中のイタリヤ』
十二月一六日	會讀・ロベスピエール「政治道徳の諸原理」⑤(上田)	四月二五日	會讀「The logbook of the captain's clerk: adventures in the China seas」		
近代日本と異文化接觸—「同時代化」を生きた人々の記録—	班長 ヴィータ、シルヴィオ	五月一六日	會讀「The logbook of the captain's clerk: adventures in the China seas」		
報	「近代日本と異文化接觸—同時代化」を生きた人々の記録」というタイトルで行った二年間の研究会の成果に立脚し、研究成果の最終的報告を視野に入れつつ、本年はテキスト會讀と資料整理を				
彙					

個人研究

人文學研究部

- 前近代日本の文明史的研究 横山 俊夫
 近代東アジアにおける日本の法と政治 山室 信一
 フランス革命と近代的主體の成立 富永 茂樹
 近代朝鮮の政治と社會 水野 直樹
 在日米軍を中心とする軍事共同體の人類學的研究 田中 雅一
 文學理論の研究 大浦 康介
 ヴェーダ文獻の生成と傳承の研究 藤井 正人
 人種・エスニシティ論 竹澤 泰子
 戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク 籠谷 直人
 近代天皇制の文化史的研究 高木 博志
 近代日本の藝術と西洋 高階繪里加
 現代社會における生物學・生命科學 加藤 和人
 音楽におけるロマン派とメロドラマの音楽 岡田 暁生
 一九世紀末イギリスのポピュラー・コンサヴァティブイズム 小關 隆
 近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想 王寺 賢太
 幕末期の畿内・近國社會 岩城 卓二
 精神分析的知を思想史的に位置づける試み 立木 康介
- ザガフカスの「義賊」と戦争 伊藤 順二
 近代日本民俗誌システムの研究 菊地 暁
 南インドにおけるプータ祭祀に關する人類學的研究 石井 美保
 近代西洋醫學發展史研究および身體論 田中祐理子
 近代朝鮮在住日本人社會の研究 李 昇燁
 近代詩の虚構性 久保 昭博
 再構築されるオリシヤ崇拜―異なる「人種・宗教」をとりこむアフリカ系アメリカ人の社會運動― 小池 郁子
 戦前期日本の大衆社會・文化 黒岩 康博
 古代インド家庭儀禮の研究 梶原三恵子
 フイリピンにおける差異と共同性の構築 日下 涉
 啓蒙と文學―アドルノ美學における「人間性」の位置づけ― 藤井 俊之
 東方學研究部 中國の小説、演劇及び説唱文學の歴史 金 文京
 近代中國の綿紡織業 森 時彦
 道教思想研究 麥谷 邦夫
 敦煌寫本の言語史的研究 高田 時雄
 中國古代中世の法制 富谷 至
 清代の文化と社會 井波 陵一
 中國科學の思想史的考察 武田 時昌
 近代中國の財政と社會 岩井 茂樹
 先秦時代の金文 淺原 達郎
 古代中國の考古學研究 岡村 秀典
- イスラーム東漸史の研究 稻葉 穰
 川西走廊の漢藏諸語の記述言語學的研究 池田 巧
 インド・中國における佛教の學術と實踐 船山 徹
 文字コード理論 安岡 孝一
 佛教研究知識ベース―禪佛教を例として ウィットレルン、クリステイアン
 中國共產黨史の研究 石川 禎浩
 秦漢時代の制度史 宮宅 潔
 高麗官僚制度研究 矢木 毅
 中國注釋學史研究 古勝 隆一
 華南沿海の社會經濟制度の變容 村上 衛
 文字定義情報に基づく文書表現系に關する研究 守岡 知彦
 中國古代中世の官制史 藤井 律之
 モンゴル時代の文化政策と出版活動 宮 紀子
 明代後期北虜南倭時代の中國社會 山崎 岳
 中國家具とその使用に關する研究 高井たかね
 中國唐宋の文學批評 永田 知之
 中國中世の考古學研究 向井 佑介
 近代中國におけるナショナルリズムと政治シンボルの 小野寺史郎
 中國北魏時代の佛教石窟寺院 安藤 房枝
 六朝隋唐期の宗教研究 金 志玟

事業概況

・セミナー・シリーズ（人文研アカデミー）

二〇一一年五月、一〇月

於 本館共通一講義室

政治を考える

五月一四日 アルチュセール 市田良彦 著

『アルチュセール ある連結の哲学』をめぐって

神戸大学国際文化学研究所教授

市田 良彦

京都大学名誉教授

阪上 孝

立命館大学先端総合学術研究科

教授 小泉 義之

司會 王寺 賢太

一〇月二三日 トクヴィル 富永茂樹 著『トク

ヴィル―現代へのまなざし』をめぐって

富永 茂樹

東京大学社会学部研究所教授

宇野 重規

山室 信一

王寺 賢太

・連続セミナー（人文研アカデミー）

二〇一一年六月、七月 於 本館セミナー室一

生命・差異・表象

六月一六日 アメリカ優生学と差異の表象

竹澤 泰子

六月二三日 境界線を浸食する「親密な共同

性」―在日フィリピン人の表象

と滞日経験 日下 涉

六月三〇日 ヒトゲノム研究と人種・エスニシ

ティ概念 加藤 和人

七月 七日 醫學史における「反対物の一致」

―表象と想像力を考える

田中祐理子

七月二二日 未来の生／性を映畫的に想像する

田中祐理子

・夏期公開講座（人文研アカデミー）

二〇一一年七月九日 於 本館共通一講義室

名作再讀「道を語る」―いま讀んだらこんなに

面白い（六）

道とは何か―『老子』河上公注を讀む

古勝 隆一

色道手引きを讀む―『難波鉦』

横山 俊夫

大衆化する「道」―飛田穂洲『野球道』を讀む

黒岩 康博

・第七回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

二〇一一年九月二日

於 學術総合センター（千代田区一ツ橋）

書儀―中世の文章作成マニュアル 永田 知之

善書―華僑・華人の人生訓 山崎 岳

日用類書―庶民生活の科學知識 武田 時昌

・連続セミナー（人文研アカデミー）

二〇一一年九月、一〇月 於 本館セミナー室

異体字の眩暈（いたいじのこうや）安岡 孝一

九月一五日「国」字攷

九月二二日「経」字攷

九月二九日「葛」字攷

一〇月 六日「密」字攷

・特別セミナー（人文研アカデミー）

二〇一一年一月一六日 於 本館大會議室

ライフサイエンスの半世紀―歴史を振り返り、

現在を考える

講師 JT生命誌研究館館長 中村 桂子

大阪大学コミュニケーションデザイン・

センター 教授 小林 傳司

司會 加藤 和人

・文学カフェ（人文研アカデミー）

二〇一一年二月一日

於 京都大学法経済学部本館・法経第七教室

作者に訊く―角田光代の小説世界

講師 小説家 角田 光代

勤め人 エッセイスト 千野 帽子

司會 岡田 暁生

・東アジア人情報学研究中心講習會（初級）

二〇一一年度漢籍擔當職員講習會（初級）

第一日（一〇月三日）

オリエンテーション 麥谷 邦夫

漢籍について 井波 陵一

カードの取り方―漢籍整理の實踐 高井たかね

第二日（一〇月四日）

工具書について 山崎 岳

實習を始めるにあたって 梶浦 晋

漢籍目録カード作成實習

第三日(一〇月五日)

目録検索とデータベース検索 安岡 孝一

漢籍データベース入力実習(一)

第四日(一〇月六日)

和刻本について

文學研究科准教授 宇佐美文理

漢籍データベース入力実習(二)

第五日(一〇月七日)

朝鮮本について 矢木 毅

実習解説 井波 陵一

書庫見學・情報交換 井波 陵一

・二〇一一年度漢籍擔當職員講習會(中級)

第一日(一二月七日)

オリエンテーション 麥谷 邦夫

經部について 古勝 隆一

叢書部について 藤井 律之

叢書と漢籍データベース 安岡 孝一

第二日(一二月八日)

史部について 宮宅 潔

漢籍データベース入力実習(一)

第三日(一二月九日)

子部について 武田 時昌

漢籍データベース入力実習(二)

第四日(一二月一〇日)

集部について 道坂 昭廣

人間・環境學研究科准教授

漢籍データベース入力実習(三)

第五日(一二月一日)

漢籍関連サイトの利用について

文學研究科閲覽掛 大西 賢人

実習解説 井波 陵一

情報交換 井波 陵一

所員動靜

・李昇燁助教(人文學研究部)は、辭任の上(三月三十一日付)、佛敎大學歴史學部准教授就任。

・籠谷直人教授(人文學研究部)は大學院地球環境學堂に配置換(四月一日)。

・横山俊夫教授(人文學研究部)は大學院地球環境學堂より配置換(四月一日)。

・岩井茂樹教授(東方學研究部)を當研究所長に併任(四月一日〜二〇一三年三月三十一日)。

・麥谷邦夫教授(東方學研究部)を附屬東アジア人文情報學研究センター長に併任(四月一日〜二〇一三年三月三十一日)。

・岩井茂樹教授(東方學研究部)を附屬現代中國研究センター長に併任(四月一日〜二〇一三年三月三十一日)。

・村上衛を准教授(東方學研究部)に採用(四月一日)。

・三成壽作を特定研究員(科學研究)に採用(四月一日)。

・VITA, Silvio イタリア國立東方學研究所所長は、客員教授(文化研究創成研究部門、四月一日〜二〇一二年三月三十一日)。

・JACQUET, Benoit Marcel Maurice フランス國立極東學院京都支部長は、客員准教授(文化

研究創成研究部門、四月一日〜二〇一二年三月三十一日)。

・袁廣泉 大學共同利用機關法人人間文化研究機構地域研究推進センター研究員は、客員准教授(附屬現代中國研究センター、四月一日〜二〇一二年三月三十一日)。

・白井哲哉を特定助教(新學術領域研究)に採用(六月一日)。

・山本奈津子を特定研究員(産官學連携)に採用(七月一日)。

・永田知之(東方學研究部)助教は、辭任の上(九月三〇日付)、ハンブルグ大學アジア・アフリカ研究所研究員就任。

・吉澤剛を特任講師(新學術領域研究)に採用(一〇月一日)。

・藤井俊之を助教(人文學研究部)に採用(二月一日)。

・外國人研究員

・PENNY, Benjamin オーストラリア國立大學

アジア太平洋カレッジ文化・歴史・言語學部副

學部長

現代中國の宗教實踐

(文化生成研究客員部門)

受入教員 田中教授

期間 一月一四日〜三月三〇日

・朱 岩石 中央民族大學民族學與社會學學院客

座教授

東アジア初期佛敎寺院の研究

(文化連關研究客員部門)

受入教員 岡村教授

期間 一月二四日～七月二三日

。SPECTOR, Céline ボルドー第三大學哲學科
准教授

「正義感覺」概念の生成と用法

(文化生成研究客員部門)

受入教員 王寺准教授

期間 四月一五日～七月一五日

。HADOLT, Bernhard Department of Social
and Cultural Anthropology, University of
Vienna

臨床遺傳學の文化人類學的研究

(文化生成研究客員部門)

受入教員 田中教授

期間 七月二〇日～一〇月二〇日

。胡 令遠 復旦大學日本研究センター教授 副
所長

戦後における中日文化交流とそれが中日關係に
及ぼした影響

(文化連關研究客員部門)

受入教員 山室教授

期間 七月二五日～二〇一二年一月二〇日

。陳 松長 湖南大學嶽麓書院副院長 教授

占術理論の日中比較研究

(文化生成研究客員部門)

受入教員 武田教授

期間 一〇月二四日～二〇一二年一月二三日

招聘外國人學者

。金 仲燮 慶尙大學教授

日本の被差別部落と韓國の白丁の比較研究

受入教員 竹澤教授

期間 一月六日～二月二三日

。STEGEWERNS, Dick オスロ大學文學部文化
研究東洋言語學科准教授

戦争の再演・戦後日本戦争映画における自己と
他者の表現

受入教員 水野教授

期間 一月一七日～二月一六日

。METZLER, Mark テキサス大學歴史學部准教
授

一九世紀グローバルヒストリーのなかの大不況

受入教員 籠谷教授

期間 一月二日～二〇一二年八月二〇日

。APP, Urs Erwin イタリア國立東方學研究所
研究員

一七世紀における中國の宗教

受入教員 ウィッテルン准教授

期間 六月一日～二〇一二年五月三二日

。馮 璋 復旦大學歴史系教授

融和と衝突・東アジアの西學の變容―日本西學
を中心に

受入教員 山室教授

期間 八月一日～一〇月二〇日

。王 也揚 中國社會科學院近代史研究所研究員

東アジア共同體と民族主義問題

受入教員 森教授

期間 九月六日～二〇一二年九月五日

。EMMERICH, Reinhard Heinz ミュンスター
大學東アジア研究所教授

白居易・元稹の判・策に關する研究

受入教員 富谷教授

期間 一〇月一五日～二月一三日

。彭 劍 華中師範大學近代史研究所副教授

辛亥革命の研究

受入教員 森教授

期間 一〇月二五日～二月一日

外國人共同研究者

。SCHERRMANN, Spike Ulrike

青島舊藏ドイツ語文獻中の法制關係資料の調査

受入教員 岩井教授

期間 二〇一〇年五月一日～二〇一三年三月三
一日(繼續)

。薛 明 華東師範大學歴史系博士課程
江戸時代の日中關係史

受入教員 岩井教授

期間 二〇一〇年一月八日～五月三一日(繼
續、九月五日～一〇月三二日)

。陳 越 國家留學基金管理委員會・浙江理工大
學

中國人留學生の翻譯活動と日中語彙交流史研究

受入教員 山室教授

期間 三月一日～八月三一日

。HAAG, Andre Robert スタンフォード大學大
學院博士課程

學院博士課程

近代日本メディアと文學における「不逞鮮人」
像および朝鮮の抗日運動に對する認識

期間 四月一日～九月一日

受入教員 水野教授

。TODESCHINI, Alberto イタリア国立東方學
研究所研究員

Abdiharnasannuccaya's vadavinscaya の英
譯と比較研究

期間 四月一日～六月三〇日

受入教員 船山教授

。李 大和 建國大學校韓國臺灣比較史研究所研
究員

明治日本と植民地朝鮮における地籍及び戶籍制
度研究

期間 四月二二日～二〇一二年三月三一日

受入教員 水野教授

。段 江麗 北京語言大學人文科學研究所學院教
授

明清小説の日本における傳播と受容

期間 九月一五日～二〇一三年九月一四日

受入教員 金教授

。李 侑儒 國立政治大學歷史研究所博士課程

中國明清時代における外來文物受容の研究

期間 八月九日～八月三一日

受入教員 岩井教授

。DELLIL Emmanuel マルク・ブロック佛獨社
會科學研究所研究員

社會恐怖の醫學思想史に向けて二〇世紀の日

佛比較研究

受入教員 立木准教授

期間 九月二九日～二〇一二年四月三〇日

外國人研究生

。金 月

歸化した在日中國人のアイデンティティの形成
とあり方

期間 二〇一〇年四月一日～二〇一二年三月三
一日(繼續)

受入教員 田中教授

。鄭 顯璐

現代に生きる日本の傳統行事

期間 二〇一〇年一月一日～二〇一二年三月
三一日(繼續)

受入教員 田中教授

。TANJAN Nicolas
社會的ひきまのりの日佛比較研究

受入教員 立木准教授

期間 四月一日～二〇一二年三月三一日

受入教員 立木准教授

。張 詩雋
「夜這い」文化について

期間 五月一日～二〇一二年三月三一日

受入教員 田中教授

出版

紀要

東方學報 八六冊(紀要第一六八冊)

二〇一一年八月三一日刊

東洋學文獻類目二〇〇八年度

二〇一一年三月二八日刊

ZINBUN number 四一

二〇一一年三月刊

人文學報 第一〇〇號(紀要第一六六冊)

二〇一一年三月三一日刊

人文學報 第一〇一號(紀要第一六七冊)

二〇一一年三月三〇日刊

研究報告その他

陰陽五行のサイエンス 武田時昌編

二〇一一年二月二五日刊

三教交渉論叢續編 麥谷邦夫編

二〇一一年三月二二日刊

コンタクトゾーン 第四號

二〇一一年三月二四日刊

東方學資料叢刊 第一九冊

二〇一一年三月二八日刊

「敦煌寫本研究年報」第五號

西陲發現中國中世寫本研究班 高田時雄編

二〇一一年三月三一日刊

所報人文 第五八號

二〇一一年六月三〇日刊

東洋學へのコンピュータ利用 第二二回研究セ
ミナー

(二〇一一年三月一八日實施)

二〇一一年三月一八日刊